

「留学生と地域高齢者とのふれあい交流会」（クリスマス会）取材しました！

「チーム名東」は、2008年12月21日（日）に愛知淑徳大学国際交流会館（通称：アイハウス）で行われた「留学生と地域高齢者とのふれあい交流会」（クリスマス会）取材しました。取材者は椋山女学園大学教育学部2年の長谷川真咲・木下綾です。



この会は、地域の一人暮らしの70歳以上のお年寄り、アイハウスに住んでいる留学生、前山小学校子ども会のスタッフと子ども達が集まって、演奏会・おもちつきなどを通して交流をするものです。主催者の前山学区会長の加藤さんによると、この会は10年前から行われており、年3回（12月：クリスマス会・3月：ひなまつり・4月：たけのこ会）開催されるものだということです。

今日は、牧の池中学校合唱部による歌や、留学生とフルート奏者による演奏などの余興もあり、和気藹々とした雰囲気の中、つくたてのお餅、おでん、地元で採れた季節の野菜のお漬物などのおいしいお料理をいただきました。今回、参加するのは4回目だという70代の女性にお話を伺ったところ、参加のきっかけは近所に住む民生委員の方に誘われて、とのことでした。「1人きりだといふ殻にこもってしまい、なかなか外出することもしなくなる。しかし、こうした会に行くとみんなの元気な顔が見られて嬉しいので、元気な限りこれからも参加していきたい」と終始笑顔でお話をしてくださいました。この会は、お年寄りのみなさんにとって、一人暮らしの寂しさや、大変さを共有する場であるとともに、心の支えとなっているのではないかと感じました。

また私たち「チーム名東」はこのクリスマス会に出席していたたくさんのお年寄りの方に、「生活上困っていること」についてのアンケートも実施しました。その結果、分かったこととしては、みなさん、このように外に出る機会をととても望んでいて、こういったイベントを楽しみにされているということです。また、意外なことに、困っていることや心配ごとは無く、近所付き合いも豊富な方が多いようでした。逆に、このようなイベントに全く参加されていない一人暮らしのお



年寄のみなさんは、困っていることや心配ごとがあるかもしれません。お年寄りのみなさんの生活が楽しく充実したものになるために、私たちもどうすればいいのかこれからも考えていきたいと思いました。また、安心した暮らしができるためには、民生委員の方や自治会の方たちの活躍も大きいと感じました。この調査の概要は、平成21年度の「チーム名東」活動報告書に掲載される予定です。